

日本看護協会、日本医療機能評価機構医療事故防止事業部、
日本医療安全調査機構医療事故調査・支援事業部が、
医療安全に関する最新情報を紹介します。

医療安全トピックス TOPICS

Vol.120

宮脇 英恵

日本看護協会看護開発部看護業務・医療安全課

9月17日は「世界患者安全の日」です

2019年5月に開催されたWHO (World Health Organization：世界保健機関) 総会で、毎年9月17日が「世界患者安全の日 (WPSD：World Patient Safety Day)」と制定されました。患者の安全を確保し安全な医療をつくるために、積極的に声をあげていきましょう。

●「世界患者安全の日」とは？

WHOは、安全ではないケアが原因で、毎年1億3400万件の有害事象が発生し、その結果、年間260万人が死亡していると報告しています¹⁾。OECD (Organization for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構) 加盟国における入院費の15%は、患者安全対策の不備に起因する支出であるともいわれています¹⁾。また、外来やプライマリケア領域で有害事象を経験する患者は10人に4人にのぼり、このうち最大80%は予防可能な有害事象だったと報告されています¹⁾。患者の安全を守ることは医療サービスが提供されているすべての国において共通する課題になっています。

2019年5月、第72回WHO総会において、毎年9月17日を「世界患者安全の日」と制定することが承認されました。「世界患者安全の日」は、患者安全 (Patient Safety) を促進することへの人々の意識・関心を高め、国際的な理解を深めるとともに、

WHO加盟諸国間の連携や行動に取り組むことを目的として制定され、世界的な団結をもって患者への有害事象を最小化する取り組みを進め、ヘルスケアの安全を確保・推進することを呼びかけています。

●「世界患者安全の日」 グローバルキャンペーン

「世界患者安全の日」制定から2年目となる2020年 (図表1) のテーマは、“Health Worker Safety：A Priority for Patient Safety (医療従事者の安全：患者安全のための最優先事項)”です。今般のCOVID-19の世界的な流行に対応する看護職や患者安全への影響を鑑み決定されました²⁾。

今年のテーマにCOVID-19の感染拡大が影響したのは、未知の伝染病に対する恐怖、不確かな情報の広がり、エビデンスの確立されていない治療方法など、前例のない新型感染症のパンデミックの状況下で、人々がかつてない不安と混乱を経験することとなったことが、看護職にも非常に大きな影響を与えたためでした。COVID-19が看護職へ与える影響は、単に業務上の負担の増加だけではありません。看護職は、自分自身が感染するリスク、医療機関や介護施設等自らがケアを提供する場において集団感染を起こすリスク、他にも、暴力、誹謗中傷、心理的・精神的なストレス障害など、世界各地で重大な